

■ 目標値未達成の要因について

法人名	株式会社大阪鶴見フラワーセンター
-----	------------------

{ 1 }

成果測定指標	単位	R6年度目標値	R6年度実績値	目標値との差
当期経常利益	千円	30,000	15,335	△14,665

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）				要因分析を踏まえた今後の対応	
①	売上高の減少			<p>R6年度目標値に対して、売上高については、花き市場の取扱高に応じて収入する使用料は増収となったものの、市場内の基幹システムを当社が整備しなくなったことでシステム賃貸料収入が大きく減少したことなどにより、売上高全体として約1億3千万円の減少となった。</p> <p>一方、費用面については、上記基幹システムを当社が整備しなくなったことにより、当初見込んでいた減価償却費が大きく減少したが、交流施設跡の施設管理や改良工事のための設計等にかかる業務委託費が当初見込みより増加したことなどにより、費用面全体として約1億1,500万円の減少に留まり、経常利益は目標値未達となったもの。</p>				<p>引き続き、費用面において可能な限り経費の節減に努めるとともに、交流施設跡を卸売市場の一部として活用できるよう整備することで、将来的な当市場の取扱高の増加による売上高増加を目指す。</p>	
	関連項目名	売上高	単位	千円	R6当初想定値	755,000	R6実績値		

■ 目標値未達成の要因について

法人名 株式会社大阪鶴見フラワーセンター

{ 2 }

成果測定指標	単位	R6年度目標値	R6年度実績値	目標値との差
廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物 (t) / 廃棄物総量 (t))	%	78	75.4	△ 2.6

未達成の要因				要因分析 (要因と考える根拠)				要因分析を踏まえた今後の対応	
①	再資源化の難しい廃棄物の総量増加			R6年度は再資源化の難しい廃棄物が計画192tに対して実績222.4t (計画比15.8%の増) となり、結果として再資源化率が3%程度低下した。 再資源化の難しい廃棄物の大部分は市場取扱の花き類であるが、特に昨年は酷暑等により品質のばらつきが顕著であったことから、場内事業者の廃棄ロスが増加したものとみている。				再資源化の難しい花き類の廃棄ロス発生については商流上の様々な原因があり当社で完全に管理するのは難しいが、市場開設者として可能な取組みとして、定温保管が可能な区画の整備等、廃棄ロスの削減に資する環境整備に努めるとともに、当社としては引き続き再生資源 (紙類、プラスチックなど) について場内事業者、廃棄業者と密に連携して処理を徹底する。	
	関連項目名	廃棄物総量	単位	トン	R6当初想定値	880	R6実績値		